

令和5年度第2回行政評価委員会（しごと部会）会議録

1 開催日時

令和5年7月25日（火）13：30～15：00

2 開催場所

花巻市生涯学園都市会館3階 第3学習室

3 出席者

（1）委員5名

影山一男委員（部会長）、細川祥委員、阿部久美子委員、佐藤貴哉委員、
日下一也委員

（2）説明者（施策関係部、施策主管課、施策関係課長）5名

商工観光部：伊藤昌俊部長

商工労政課：久保田謙一課長

大迫総合支所地域振興課：高橋哲也課長

石鳥谷総合支所地域振興課：佐藤充課長

東和総合支所地域振興課：伊藤潤課長

（3）事務局（施策及び事務事業担当課）

秘書政策課：伊藤浩課長補佐

秘書政策課企画調整係：澤田宇利主査

財政課財務経営係：阿部ゆうみ主査

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「商店街の再生」について評価を行った。

（1）施策主管課による説明、質疑応答

（2）委員会の評価結果の集約

5 議事録

（1）施策主管課による説明、質疑応答

（影山一男部会長）施策の目指す姿に「歴史と景観が調和した魅力ある商店街となっています」とあるが、花巻は宮沢賢治、大迫はぶどうや早池峰山、石鳥谷はお酒、東和は萬鉄五郎記念美術館など各地域の顔づくりの取り組みがあると思うが、今回は事業の方であまり見えてきていないという気がした。その点について

て、施策評価シートに記述があれば、施策の目指す姿への施策の取り組みとしてわかりやすいような気がする。

実績は数字で出ていて、評価もAということで、目標とするべき方向に向かっているのだというふうに評価して良いのではないか。

(阿部久美子委員) 令和4年度の実績が数字で出ていて、達成度もAということで、非常に頑張っており、目標とするべき方向に向かっていると評価して良いのではないか。花巻の中心市街地にある旧総合花巻病院跡地や新興製作所跡地をどのように花巻らしい活用ができるかが今後の課題であり、これから出てくると思うが、令和4年度は評価して良いと思う。

(影山一男部会長) 新規で創業されたネイルやハンバーガーショップやお弁当屋の経営状況はうまくいっているものか。

(久保田謙一商工労政課長) 具体的な数字を聞いているわけではないが、この支援制度を使った後に、経営状況についてのご相談を必ず受けてもらうことを条件にしており、出店して傾きそうだという話は聞いていない。むしろ、若い方は頑張っていたでいていていいのではないかと評価している。

(影山一男部会長) 大迫ではワークショップを6回開催したが、若い人はどの位参加されたのか。

(高橋哲也大迫総合支所地域振興課長) ワークショップを実施した大迫地域まちなみ整備検討委員会は、仲町商店街の方々、コミュニティ会議の会長や地域の方々で構成している。それに加えて若い人という意味では元地域おこし協力隊の方々や商工会青年部の方々に声をかけて、ワークショップの中に入れていただき意見を伺った。

(細川祥委員) 前年度の振り返りの大迫のところに、建物の改修が今後の方向性にあるが、何か具体的に令和4年度で建物の改修を実施した例はあるものか？

(高橋哲也大迫総合支所地域振興課長) 建物の改修の事例は、令和4年度はない。大迫地域まちなみ整備計画の発端は、昔大迫が宿場町で栄えていた時代があったが、今は人口が減少する一方であり、何とかしなければならないということで、古いまちなみを生かしたまちづくりをしましょうということから始まった。ただし、建物や景観を変えるだけではだめだということからワークショップを開催し、ソフト面から入っていくこととし、これまではソフト面の充実に向けたワークショップを実施してきた。

その結果を踏まえて、令和5年度は整備計画を策定するが、その中にはこれまでのワークショップを踏まえて、例えばチャレンジショップをやる施設を整備するとか、外観を昔風に統一する等、いろんな方向性を見据えた景観作りの計画をまとめることになる。そこではじめてハード部門を加えて、計画策定を進める流れになるよう軌道修正しながらやっている。

(影山一男部会長) 施策を構成する事務事業一覧の成果がCだった部分について、例えば、商店街賑わいづくり事業の成果がCだった。事業No.010の商店街賑わいづくり事業費は三つの活動指標と成果指標まとめると目標値より低いということでおそらくCになったと思う。事業No.012は、どこの資料を見ればよいかわからなかった。

(久保田謙一商工労政課長) 事業No.010と事業No.012は商店街賑わいづくり事業であり、事業No.012がまちなか創業支援補助金の利用件数であり、目標5件に対して、実績5件であるため目標をクリアしているが、他の部分のイベントにつきましては、実際コロナ禍でお祭り等の開催が少なく、そのために補助金実績、イベントの実施件数や来場者数も少なかったということから、この部分が反映されて結果的にCとなった。

(阿部久美子委員) 花巻では空き店舗の利用があったという評価がされているが、それ以外のところではその点に触れていない。石鳥谷はまちの駅いしどりや酒蔵交流館がオープンし、そこと中心商店街からちょっとかなり離れている感じがあるが、中心市街地への誘導や連携については計画されていることが何かあるものか？

(佐藤充石鳥谷総合支所地域振興課長) 石鳥谷中央通り商店街振興会が中心となり、酒蔵交流館を中心とし旧宝峰跡地等も利用しながら、年4回の「酒蔵まつり」等のイベントを開催した。去年の実績では、酒蔵交流館を中心に行ったイベントの来場者数は約7,600人ぐらい。まちなかにも[小さな百貨店ぷらっと]という石鳥谷中央通り商店街振興会が運営してるところがあり、そちらには産直などが入っている。そこも憩いの場として利用しながら、賑わいを見せていきたい。

(伊藤昌俊商工観光部長) この5件の中心市街地の新出店について、そのうち1件ハンバーガー屋は石鳥谷駅前、あと4件は、御田屋町、豊沢町あたり。

(細川祥委員) まちなか創業支援事業は5件で予算200万円ということだが。

(伊藤昌俊商工観光部長) まちなか創業202万2000円ということで、補助金は上限50万円、2分の1の補助5件で195万7000円、それにプラスして、経営支援経営相談とか、指南をするものだが、その診断士を雇っており、65,000円。

(細川祥委員) 今は借金するのも怖いし、自腹の資金を持っていないと運転資金もままならない。

(久保田謙一商工労政課長) 我々も支援するに当たりまして金融機関や、商工会議所、ビジネスサポート花巻など、関係機関の方と連携し、本当にこれでやっているだろうという判断をした上で、支援するということもある。自腹は出るのが、経営状況も大丈夫だろうと一応踏んでやっている。

あとは大きい業態ではなくて、スモールサクセスというか、チャレンジして、

小さくまずやるっていうような方が多く、お1人やご夫婦でやるというのが割と多い。

(細川祥委員) 農業は何も持っておらず、全部教えるからという状況が出てきている中で、今の時代に合わせて発想を変えていかないと、総体が減っている状況の中で、外の人を引っ張ってくるという視点を大事にしなければならないという思いもある。

(伊藤昌俊商工観光部長) 商業の振興という政策の中で言うことではないかもしれないが、商店街の再生として、商店街が、魅力がある場所となっただきたいということがあるので、商店街が、顔づくり交付金であったり、リノベーションをやったり、スモールサクセスというチャレンジができる魅力的な場だということアピールしながら、移住や定住にもつなげていけばいいのかなと思う。

(細川祥委員) せっかくある場所なので、何とか活用して、土着な人じゃないかもしれないが、地元の人になってもらう人を呼べる形も一つの考えなのかなという気がする。良い視点の事業なので、大いにPRして盛んにしてもらえればと思う。

(伊藤昌俊商工観光部長) 個々の商店が一つ一つ売り上げが上がっていくものではないかもしれないが、どちらかというと、商店街の場が魅力を持ち続けることをやっていくという視点の方が強い。

(細川祥委員) スモールビジネスという視点は大事である。

(佐藤貴哉委員) 成果指標の1番目として、市街地における1日当たりの歩行者数の目標値を6,000人とするのはなぜか。

(久保田謙一商工労政課長) 目標値は過去の平均値から設定したものであり、このくらい行けばいいだろうという基準は正直ないが、6,000人を達してくれば、また段階を上げて目標を上げましょうかということにはなるんじゃないかと思う。

(佐藤貴哉委員) コロナ前4,800人だったのが、令和4年度は6,600人で、1,700人くらい増えているが、これはどんなことが要因として考えられるか。

(久保田謙一商工労政課長) 宵宮等のイベントがやはり大きいのではないかと。去年も例えば「どでびっくり市」とか、あるいは大町商店街だったり駅前の商店街で規模は小さいが、宵宮もあり、やはり人も増えた。

(佐藤貴哉委員) 平成31年度は、宵宮もあったと思うが、それからでも1,700人くらい増えたが、これはどうしてか。

(久保田謙一商工労政課長) やはりコロナ禍で行動やイベント等が制限された反動が一気に来たというのは考えられる。これまでイベント等がなかったが、制限等が緩和されたことから、今後やはり増えてくるだろう。

(佐藤貴哉委員) 花巻市の社会実験に大いに共感することがあって、7月8日に上町の商店街を活用して、私達も商店街の空き家を活用したいということで、空き家を私達で借り受けて、店長体験を行った。ビジネスサポートや信用金庫から資金

面での助言をいただきながら、実際借りられたのは旧菅野シューズだけで、他は借りられる状況にない。行政に期待することとして、まちなかで創業するために、水道インフラとか空き店舗の整備を市でやっていただきたい。何かしらの補助制度があるとありがたい。

(伊藤昌俊商工観光部長) 過去に、上町あたりあるいは吹張町のあたりの空き店舗のオーナーさんに、どんな物件を所有しているか、お貸しするつもりがあるとか、家賃はいくらぐらいかとか、インフラはどのようなものかとお聞きしながら、リストを作ってマッチングとして、こういう物件がありますという話をさせていただいているが、貸し賃が高いという話を聞く。リノベーションのスクールをやって、上町のオーナーの方々にリノベーションの趣旨を説明し、趣旨に賛同してくださいとお願いして、賛同してくださった方が最初は固定資産税ぐらいの賃料で貸してもいいよという中で、少しずつリノベーションが行われているというのが実態で、空き店舗を貸してお店とかにならないと、上町とか商店街がどんどん寂しくなっていくと思っている方を中心に貸してくださるし、ご自分のお住まいで貸せないという物理的なものもあるかもしれない。リノベーションの学習会というのは、昨年度で終わったが、今後も折々でやりたい。

(日下一也委員) 東和地区においてジャズライブは地元のバンドか？

(伊藤潤東和総合支所地域振興課長) 地元の方をはじめ東京で活躍してる方もいらっしやいましてピアノやギターを使った演奏ということで、年4回、土沢の酒屋さんで開催しています。

(2) 委員会の評価結果の集約【施策評価検証シートの整理】

①「前年度の振り返り」の「反映状況」について

(影山一男部会長) 例えば先ほど、日下委員が質問したジャズライブ、一体どこの誰なのかや、新規で5件の創業があったが、これも少し具体的に書いてもらうなど。

(阿部久美子委員) 新規5件との書き方だと、全部花巻だったのかなと思える。花巻・石鳥谷など具体的に書いてもよい。

(影山一男部会長) 施策評価シートを一般の人が見て、こんなに創業してる人がいるんだということがわかれば興味を持つだろうが、興味関心がある市民からすると、もう少し具体的に書いてほしい。

(佐藤貴哉委員) 反映状況の記載内容が令和4年度とした場合、道の駅石鳥谷は今年度の話なのでは。

(澤田宇利秘書政策課主査) 酒蔵交流館と道の駅とは別で、酒蔵交流館は石鳥谷商店街まちなかの駅のこと。

(影山一男部会長) その辺をもう少しわかるように書いてくれると良い。非常に成果が上がっているのも良いと思う。

②「成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

(影山一男部会長) 達成度はAでコロナが大体終わったということでその反動の需要と、天気が良かったということが背景・要因としてあるが、商店街活性化イベントの来街者数は目標 95,000 人に対して実績 22,356 人で、6/26~27 の市街地の 1 日あたりの歩行者数が増えたことの因果関係が薄いかもしれない。

③「施策を構成する事務事業の検証」について

(影山一男部会長) 新たに取り組むべき事業はないかということで、滞在型の余暇の過ごし方、体験を重要視する「コト消費」への転換に関わり、歴史と文化とか考えたときに、花巻だったら賢治に関する体験、東和であれば萬鉄五郎などの芸術家、大迫であればワイン、早池峰、石鳥谷であればお酒など、コト消費の内容をもう少し具体的に地域ごとに記述すると、もう少しわかりやすくなる。

④「施策の総合的な評価」について

(影山一男部会長) 前年度評価時の今後の方向性と反映状況と似たような文章であり、例えば、大迫はこれまではソフト面の改善をしてきたが、今後は貴重な建物を有効活用するとしてハード面の方に少し変えて行くという、ヒアリングでそういう説明があったが、違いが見えない。